

令和4年度 大阪桐蔭中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- ・建学の精神「偉大なる平凡人たれ」と、桐蔭の教育方針「鼎立なりて碩量を育む」のもと、徳知体教育の充実を図ります。
- ・生徒一人一人が希望する進路、目標、自己実現を達成できる学校となります。
- ・高校3ヵ年それぞれのコースに応じた教育カリキュラム、また、設置するⅠ類・Ⅱ類・Ⅲ類のコース教育の特性を一層伸長させます。
- ・大阪桐蔭として日本を代表する中等教育機関としての地位を確立します。

2. 中期的目標

1. 建学の精神・教育方針に基づく教育の実践

- (1) Ⅰ類・Ⅱ類の難関国公立大学進学実績をさらに伸ばすために、常にカリキュラム、授業内容を見直し、教学面の充実を図る。「学習指導要領」の改訂に伴って再編したカリキュラムを検証する。
- (2) 配慮を要する生徒への支援体制の強化に取り組む。
- (3) 教員の指導力の向上に取り組む。
- (4) Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップする体制を整える。また、その活躍を継続させるためにも、指導者の後継者育成を進める。
- (5) 生徒のマナーの向上と挨拶の励行を促す。
- (6) 学校行事の実施時期、内容の検証をし、充実を図る。

2. 大阪産業大学および附属高校との連携

- (1) 大阪産業大学とのスポーツクラブの交流を図る。
- (2) 「特別推薦入試制度」を充実させ、大阪産業大学との進学に関わる連携を強化する。
- (3) 大阪産業大学の入学試験の検証に関わる。
- (4) 定期戦の実施も視野に入れ、附属高校とのスポーツクラブの交流を図る。

3. 地域との連携

- (1) 地元(大東市・四条畷市)から応援される学校を目指し、地元地域のイベントへの生徒の積極的な参加を促す。
- (2) 組織のレベルで地元地域との連携を図り、地元地域に貢献する一方で、地元地域からの積極的な教育支援を受けることのできる開かれた学校を目指す。
- (3) 災害等の非常時に地域への支援・協力を実行できる体制を構築する。

4. キャンパス整備

- (1) 東館の撤退と本館集約に向けて「キャンパス整備計画」を策定する。
- (2) スポーツクラブの練習場を整備し、校外グラウンドを確保する。
- (3) 校内グラウンドの拡張、寮の新設について検討を進める。
- (4) 老朽化に伴う建物の傷みの点検と修繕を行う。
- (5) ICT教育を進めるための環境を整備する。
- (6) 法人のサポートのもと、全教員へのPCの貸与を検討する。
- (7) 電気機械・器具の最新化により、エコスクール化を進める。

5. 卒業生および保護者との連携の強化

- (1) 桐友会、桐友会OB会、同窓会の3つの外郭団体との連携を強める。また、学校が団体間の連携を強めるための役割を果たす。
- (2) 各会からの支援について、より有効なものにする。
- (3) 必要に応じて、各会の規約を見直す。
- (4) 保護者とのコミュニケーションのツールとして、HPやミマモルメを活用する。

6. 大阪桐蔭ブランド力の強化

- (1) 学則定員、募集定員について、常に見直しを図る。
- (2) より効果的な広報活動の方法を探る。
- (3) 広報・渉外部の充実を図る。
- (4) Ⅰ類・Ⅱ類の進学実績(特に国公立難関大学・国公立医学系大学への合格)を向上させ、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、受験生へのアピールを強める。
- (5) 優秀な教員の確保に努める。
- (6) Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップし、全国優勝を目指す。
そのことで、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、知名度を高める。

7. コンプライアンスへの取り組み

- (1) 各種規定を整備・周知し、コンプライアンスの徹底を図る。
- (2) 「学校法人大阪産業大学情報管理基本規定」に基づき、法人のサポートのもと情報管理体制を構築する。
- (3) 人権教育、ハラスメント教育、体罰、いじめ等に関する研修を実施する。

3. 学校関係者評価委員会からの意見

評価アンケートの結果と分析（令和5年3月実施 主な項目を抜粋）	学校関係者評価委員会からの意見
<p>■ 授業に関して</p> <p>○ 授業の進度について</p> <p>R4 適正である（中 81% 高 80%）、遅くしてほしい（中 14% 高 11%） R3 適正である（中 78% 高 80%）、遅くしてほしい（中 16% 高 10%） R2 適正である（中 76% 高 76%）、遅くしてほしい（中 16% 高 13%） R1 適正である（中 73% 高 72%）、遅くしてほしい（中 17% 高 16%）</p> <p>○ 授業の内容について</p> <p>R4 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 90% 高 87%） R3 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 90% 高 88%） R2 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 90% 高 85%） R1 非常にわかりやすい・わかりやすい（中 86% 高 81%）</p> <p>○ 授業に対して満足しているか</p> <p>R4 非常に満足・満足（中 92% 高 88%） R3 非常に満足・満足（中 91% 高 90%） R2 非常に満足・満足（中 90% 高 87%） R1 非常に満足・満足（中 87% 高 85%）</p> <p>○ 宿題の量について</p> <p>R4 適正である（中 75% 高 76%）、多すぎる（中 12% 高 12%） R3 適正である（中 72% 高 76%）、多すぎる（中 15% 高 9%） R2 適正である（中 68% 高 74%）、多すぎる（中 15% 高 10%） R1 適正である（中 64% 高 69%）、多すぎる（中 17% 高 13%）</p> <p>【授業に関する評価はいずれの項目もポイントが上昇もしくは昨年と同程度となっている。90%近くの生徒が授業内容がわかりやすく、非常に満足または満足と答えており、質の高い教育ができているものと評価できる。また、授業の進度、宿題の量についても適正であるとの評価が年々高くなっており、授業での工夫が見て取れる。その一方で、授業が早すぎる、宿題の量が多すぎると感じている生徒も一定数いることにも十分留意すべきであり、個別指導などの対応も引き続き必要である。】</p> <p>■ 教員に関して</p> <p>○ 教員は熱心に授業を行っているか</p> <p>R4 肯定的評価（中 96% 高 95%） R3 肯定的評価（中 95% 高 96%） R2 肯定的評価（中 95% 高 94%） R1 肯定的評価（中 93% 高 93%）</p> <p>○ 教員は、質問をしやすいですか（聞いてくれる）</p> <p>R4 肯定的評価（中 94% 高 95%） R3 肯定的評価（中 95% 高 94%） R2 肯定的評価（中 95% 高 91%） R1 肯定的評価（中 91% 高 89%）</p> <p>○ 教員は、あなたの悩みを聞いてくれますか</p> <p>R4 肯定的評価（中 90% 高 90%） R3 肯定的評価（中 89% 高 88%） R2 肯定的評価（中 87% 高 86%） R1 肯定的評価（中 84% 高 84%）</p> <p>○ 教員は、あなたに問題が起こったときにしっかり対応してくれますか</p> <p>R4 肯定的評価（中 95% 高 95%） R3 肯定的評価（中 96% 高 96%） R2 肯定的評価（中 96% 高 95%） R1 肯定的評価（中 94% 高 93%）</p> <p>【授業に関する評価と同様に教員に対する評価も非常に高く、昨年度と同程度となっている。質問のしやすさ、生徒の悩み・問題への対応も肯定的評価がとて高く、生徒と教員との距離が近いという本校の特色がよく表れた結果となっている。他と比べ</p>	<p>■ 授業に関して</p> <p>・授業の進度について、宿題の量について一定数「遅くしてほしい」「多すぎる」という意見があるが、クラス全体で同じ授業をしているとこのような意見を減らすことは近々限界になっていくのではと思います。</p> <p>・難関国立大学進学コースなど目標を絞り、目標を明確化している学校方針である為、その特徴を生かし少人数クラス、生徒の細分化をして、極端ではありますが個別指導のような他の学校にない特長を出すなどして、入学生徒やその保護者に当校への進路説明に魅力的な学校をアピールしてはと思います。</p> <p>・授業の内容について、授業に対して満足しているかについて、先生方の努力で年々良い傾向になっていると思います。</p> <p>・昨年度と比較し、全体的には概ね横ばいではあるが進度について、中学の「適正」が81%、「遅くしてほしい」が14%と改善されている点は、学校が意識をして取り組まれた成果だと考えます。</p> <p>・授業の内容・満足度、宿題の量について、中学は改善がみられるが、高校は前年度より横ばいか低下しており、授業内容の工夫や個別指導及び生徒が理解しやすい授業などきめ細やかな対応が必要であると考えます。</p> <p>・全体的な嵩上げを意識的に行っていただくようお願い致します。</p> <p>■ 教員に関して</p> <p>・学校が全国的に有名になるにつれて、授業に関してはできて当然のように世間から思われがちだと思う。</p> <p>・授業以外の生徒の悩みや、問題をどのように向き合って解決してくれるかが、教員の方々に希望するところです。近年コンプライアンスを重要視されているので、これを理解してもらっている教員であることを希望いたします。</p> <p>・全体的にポイントが高く、各教員の生徒に対する関わりの強さを感じられる。生徒との距離が近いというのは、学校の特色であり、強みであり、この点は各教員により意識していただきたい。</p> <p>・教員の資質により、授業に対しての取り組み姿勢が異なるように感じることもある。学校の授業方針（内容や手法）を明確化し、定期的な研修やミーティングで意思疎通と情報共有を行い、個々の生徒に応じた教育方法を学ぶことで、人材育成に繋がっていただきたく思います。</p>

て若干評価が低かった「悩みを聞いてくれますか」の項目も年々ポイントが高くなっており、相談しやすい環境ができていると評価できる。】

■ 学習への取り組みに関して

○ あなたは、授業をしっかり聞いていますか

R4 肯定的評価（中 92% 高 93%）、否定的評価（中 8% 高 7%）

R3 肯定的評価（中 93% 高 94%）、否定的評価（中 7% 高 6%）

R2 肯定的評価（中 93% 高 93%）、否定的評価（中 7% 高 7%）

R1 肯定的評価（中 91% 高 91%）、否定的評価（中 9% 高 9%）

○ あなたは、授業の予習・復習をきちんとしていますか

R4 肯定的評価（中 48% 高 58%）、否定的評価（中 52% 高 42%）

R3 肯定的評価（中 48% 高 58%）、否定的評価（中 52% 高 42%）

R2 肯定的評価（中 48% 高 46%）、否定的評価（中 52% 高 54%）

R1 肯定的評価（中 47% 高 38%）、否定的評価（中 53% 高 62%）

○ あなたは、宿題や課題にきちんと取り組んでいますか

R4 肯定的評価（中 82% 高 86%）、否定的評価（中 18% 高 14%）

R3 肯定的評価（中 84% 高 86%）、否定的評価（中 16% 高 14%）

R2 肯定的評価（中 81% 高 84%）、否定的評価（中 19% 高 16%）

R1 肯定的評価（中 77% 高 79%）、否定的評価（中 23% 高 21%）

○ あなたは、早朝テスト・終礼テストに真剣に取り組んでいますか

R4 肯定的評価（中 90% 高 87%）

R3 肯定的評価（中 86% 高 88%）

R2 肯定的評価（中 86% 高 82%）

R1 肯定的評価（中 87% 高 87%）

○ あなたは、模試を真剣に受験していますか

R4 肯定的評価（中 91% 高 92%）

R3 肯定的評価（中 90% 高 91%）

R2 肯定的評価（中 90% 高 87%）

R1 肯定的評価（中 91% 高 89%）

【授業、早朝・終礼テスト、模試への取り組みは非常にポイントが高く、勉学意欲の高さがよくわかる結果となっている。模試については、引き続き受験させる試験のレベルが適切かどうかを十分検討の上、模試を通じて実力をつけさせていくことが重要である。

宿題・課題への取り組みは中高とも年々ポイントが上昇していたが、今回は中学校で若干下がったので、原因の究明と早めの対策が必要である。一方、予習・復習への取り組みは高校においてはポイントが上がってきたが、中学は肯定的評価がまだ 50% に満たず改善の余地が大きい。課題などが多く十分時間がとれない可能性があるが、習慣づけのための働きかけが今後も必要である。】

■ 学校行事に関して

○ あなたは、学校行事に真剣に取り組みましたか

R4 肯定的評価（中 93% 高 90%）

R3 肯定的評価（中 92% 高 88%）

R2 肯定的評価（中 89% 高 89%）

R1 肯定的評価（中 91% 高 92%）

○ あなたは、学校行事には満足していますか

R4 肯定的評価（中 75% 高 56%）

R3 肯定的評価（中 62% 高 42%）

R2 肯定的評価（中 70% 高 62%）

R1 肯定的評価（中 83% 高 79%）

【新型コロナの影響で学校行事が十分できなかったため満足度が大きく下がっていたが、令和 4 年度は概ねすべての行事を行うことができ、満足度が大幅に上がった。また、学校行事に真剣に取り組む生徒の割合も増えた。何に対しても一生懸命頑張るのが本校生徒の特徴であり、充実した学校生活が送れるように、できる限り行事を実施

■ 学習への取り組みに関して

・他校の生徒も大阪桐蔭の早朝テスト、終礼テストには話題にあがっており、いろんな意味で注目されています。（厳しい学校である。でもこれの積み重ねが大事など）このまま続けていってほしいと思います。

・ポイントの高さで、勉強意欲が十分に伝わると評価される。しかしながら課題が多く、習慣づけが必要である予習・復習に十分時間が取れないというのは、学習バランスの改善や課題内容の再考が必要であると思います。

・日々の勉強に追われ、模試対策まで学習をする時間がなく、模試の肯定的評価が向上できていない。上記のように、学習バランス、日常学習の時間配分などを今後、指導する必要があると思います。

■ 学校行事に関して

・コロナ渦で学校行事が十分できてない状況が続いている。この中でも保護者や外部の方が観覧に来られる人数が多いような気がします。保護者は当然観覧してもらいたいですし、外部の方々もこのような機会に学校を見てもらうことも大切です。

・人数が多くなる行事には外部の方々への配慮ある学校対応をお願いいたします。入場整理、混雑回避して楽しんでもらうような、難しいですが、生徒への満足度アップと観覧者への配慮をお願いいたします。

・コロナ禍の中で概ねすべての行事を開催いただいたことは、大変感謝しております。学校行事を実施する上ではその行事の目的をしっかりと認識させ、テーマ性を持たせて開催するなどが、クラスを一丸にし、友人作りを容易にし、延いては団体生活に順応できる力につながると思います。

・勉強だけではなく、今しかできない行事で一生の高校生活の思い出と今後に繋がる友人関係を構築し有意義な 3 年間を送れるよ

するよう努めるとともに、内容も見直していくことが重要である。】

■ 学校生活に関して

○ あなたは、学校生活を楽しく感じますか

- R4 肯定的評価 (中 87% 高 81%)
- R3 肯定的評価 (中 86% 高 78%)
- R2 肯定的評価 (中 87% 高 80%)
- R1 肯定的評価 (中 85% 高 82%)

【コロナ禍においても大多数の生徒が学校生活を楽しいと感じていたが、新型コロナの影響が軽減されてきたこともあってか、令和4年度はさらに高い満足度となった。高校は大学受験を控えて緊張感の高まる時期であり、中学校に比べ評価が低くなるのは致しかたない面があるが、受験勉強のストレスなどを十分考慮した上での対応やケアが必要である。】

■ その他

○ あなたは、校則をしっかり守っていますか

- R4 肯定的評価 (中 96% 高 97%)
- R3 肯定的評価 (中 95% 高 97%)
- R2 肯定的評価 (中 97% 高 97%)
- R1 肯定的評価 (中 94% 高 94%)

○ あなたは、挨拶をしっかりしていますか

- R4 毎回挨拶をする (中 52% 高 55%)
たまにする (中 43% 高 42%)、ほとんど・全くしない (中 5% 高 3%)
- R3 毎回挨拶をする (中 50% 高 55%)
たまにする (中 44% 高 41%)、ほとんど・全くしない (中 6% 高 4%)
- R2 毎回挨拶をする (中 50% 高 60%)
たまにする (中 44% 高 37%)、ほとんど・全くしない (中 6% 高 3%)
- R1 毎回挨拶をする (中 47% 高 55%)
たまにする (中 48% 高 39%)、ほとんど・全くしない (中 5% 高 6%)

【校則に関してはよく順守されており、学校の規律がよく保たれていると評価できる。挨拶に関しては中学校において毎回挨拶をする生徒の割合が増えてきており、生徒による挨拶運動や指導の成果が出て来ているようである。しかし毎回挨拶する生徒が半数程度に留まっており、引き続きホームルームや集会等において根気強く指導を行っていかねばならない。また教職員から生徒に率先して声をかけ、挨拶を習慣づけることも必要である。】

うに創意工夫を願います。今後、学校行事のスケジュールを見直すことも必要に応じてご検討下さい。

■ 学校生活に関して

- ・学校生活の満足度が高いといことは、日々の学校側の努力の成果だと思えます。日中の大半の時間を学校で過ごす生徒にはとても大切なことだと思えます。
- ・コロナ禍で停滞していたことなど今後、再開するにあたり新たな形式で実施していただくことを期待しています。
- ・高3生は最後の締めくくりである受験をどのように乗り越えていくのか、日常生活を含め、その心構えを学校・生徒・保護者で共有できるように発信してください。保護者との一体感が生まれると思えます。

■ その他

- ・校則に対して、不満もなく厳守されていることは、日頃からの教員の方々の努力のたまものだと感じます。
- ・挨拶は他の学校に比べてもできていると思えます。挨拶は社会に出て重要ですし、躰のだと思えますので、社会に出て大切なことであることの指導をお願いします。
- ・挨拶は、まずは大人から。教職員の方々も、今後も率先して挨拶の励行をお願い致します。
- ・家庭でも日々のあいさつは習慣であり、学校から家庭にも挨拶の大切さを伝えてほしいと思えます。
- ・保護者が学校に訪問することがありますが、生徒たちはいつも気持ちの良いあいさつをしてくれる印象があり、生徒たちの回答より実質は、高いような印象があると思えます。

■ 総括

- ・全体的に前年度より高評価を得られています。先生方のご指導と努力があったと思えます。

本年度の取組内容及び自己評価に関する意見

- ・これからますますの少子化になっていく中、小学生、中学生が大阪桐蔭を選択する魅力あふれる学校になるように、学校行事にも魅力ある学校にしていきたい。
- ・最近中学校での桐蔭の評価が下がっているように思えます。他の進学校に魅力を感じている生徒が多くなったように思えます。他校が魅力ある学校作りを実施してきているように思えます。大阪桐蔭ももっと魅力ある学校になってほしいと思えます。
- ・社会に出た時に大阪桐蔭のこの習慣が役立つ学校になってほしいと思えます。
- ・生徒と教職員の関係が何より大切であり、双方の関係性がしっかり構築されていることが今回の評価でもわかります。ただ、この評価は、実際の現場での先生方の日々の努力のたまものだと思う反面、働き方に負荷がかかりすぎていないかを検証し、教員の増員等待遇改善をご検討いただきたく思います。
- ・学校と家庭がしっかり情報共有を行うには学校側からだけでなく、家庭側からもアプローチが必要。家庭側から学校へ情報を発信できるコミュニケーションツールの設置を検討いただきたく思います。
- ・今後、少子化を見据えた対策として、保護者より理系専攻を強化し、医学薬学コースなどの設置の要望があり。世の中の潮流に合わせた形でご検討下さい。
- ・自己評価に関して、達成状況が評価指標に対応しているとは言えないので改善をしていただきたい。

4. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ※【 】内は達成状況及び今後の課題
1 建学の精神・教育方針に基づく教育の実践	(1) I類・II類の難関国公立大学進学実績をさらに伸ばすために、常にカリキュラム、授業内容を見直し、教養面の充実を図る。「学習指導要領」の改訂に伴って再編したカリキュラムを検証する。	<p>① 「学習指導要領」の改訂に伴って再編をした高校のカリキュラムについて、教員の認識を深め、効率的な授業を展開する。</p> <p>② 一貫生については、中高一貫教育の特性を活かし6年をかけて学力の伸長を目指し、高入生については、2年目を迎える「エクシードクラス」を牽引役として学力の伸長を目指す。</p> <p>③ この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や内容の変更を余儀なくされた学習合宿・受験対策合宿などについて、実施を前提により効果的な実施時期・内容を検討する。</p> <p>④ 各種模擬テスト・各種検定・志望校調査を効果的に実施する。</p> <p>⑤ 中学1年生対象の「ネイティブ講師による英会話」の授業、中学2年生～高校2年生対象の「オンライン英会話」の授業をさらに充実させ、英語4技能の向上に努める。</p> <p>⑥ ICT機器の活用による情報活用能力を育成し、効率的な学習を实践する。(オンライン授業への対応)</p>	<p>新学習指導要領への対応状況</p> <p>学習意欲・学力の伸張度</p> <p>学習合宿等の実施状況</p> <p>模擬試験の生徒へのフィードバック状況</p> <p>英語4技能の成績向上</p> <p>ICT機器の活用状況</p>	<p>① 教務部・教科・学年で会議を開き、再編をしたカリキュラムの徹底と、新カリキュラムに沿った効率的な授業について検討し、実践した。 【新学習指導要領の観点別評価に関して、教科担当者への周知が不十分であったため、周知徹底が必要である。】</p> <p>② エクシードクラスができたことにより高入生の東大京大志望者が増えた。 【高い目標を持った生徒が増えることによる他のクラスへの波及効果が期待できる。】</p> <p>③ 新型コロナ感染対策をしっかりと行いながら、学習合宿等の研修行事を予定どおり実施できた。 【すべての研修をコロナ前とほぼ同じ形態で実施できたが、感染対策は今後も続ける必要がある。】</p> <p>④ 模試の結果を学年・教科ごとに分析し、課題点を見つけ、次の模試に向けて対策を検討した。 【学年・教科担当と進路指導部との連携を図ることができた。今後も模試の結果を効果的に生徒へフィードバックすることが重要である。】</p> <p>⑤ ネイティブ講師による英会話授業、1対1のオンライン英会話により、英語に対する学習意欲が高まり英語4技能も向上した。 【今後は4技能を通常の授業でいかに盛り込むかが課題である。】</p> <p>⑥ オンライン英会話、中学校の理科実験演習などでタブレットを積極的に活用できた。 【ICTによる教育実践例を蓄積し、効果を検証しながら一層の活用を推進することが重要である。】</p>
	(2) 配慮を要する生徒への支援体制の強化に取り組む。	<p>① 不登校・いじめ・発達障害・家庭環境などの問題を抱えた生徒が、安心して登校し授業が受けられるよう保健室・教育相談・人権教育推進部・生徒指導部・学年・担任・保護者が協力し支援できる体制の強化に取り組む。</p>	<p>生徒が抱える問題への早期対応</p>	<p>① 生徒が抱える様々な問題について個人が対応するのではなく、学年・分掌・委員会等で情報を共有しながら対応するよう努めた。 【担任が一人で問題を抱え込むことがあるので、教員同士が相談しやすい環境づくりが必要である。】</p>
	(3) 教員の指導力の向	<p>① 教員向け外部研究会・研修会（教科指</p>	<p>研修への参加状況</p>	<p>① 人権研修、入試研究会へ参加した</p>

<p>上に取り組む。</p> <p>(4) Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップする体制を整える。また、その活躍を継続させるためにも、指導者の後継者育成を進める。</p> <p>(5) 生徒のマナーの向上と挨拶の励行を促す。</p>	<p>導・進学指導・生徒指導・ICT教育など)へ積極的に参加し、教員としての資質を高める。</p> <p>② 授業力の向上に向けて研究授業の機会を増やす。</p> <p>③ 授業アンケート・自己評価アンケートの有効活用を図る。</p> <p>④ 「学校関係者評価委員会」を開催し、客観的な評価を受ける。</p> <p>① Ⅲ類クラブの全国大会出場、全国優勝など、高いレベルを目指すために練習環境を整備する。</p> <p>② Ⅲ類クラブの指導者の後継者育成を進める。内部での育成を進めながら、必要であれば外部からの招聘も検討する。</p> <p>① 朝礼(全校、本館・東館、学年)・登下校指導を実施し、マナーの向上や挨拶の励行を促す。朝礼やHRでは、外部の方の本校生徒に対する評価(アンケートやメールや電話による具体的なもの)を伝え、訴える。また、生徒会・運動部を牽引役として挨拶の励行を促すとともに、教員からも積極的に声掛けをする。</p>	<p>研究授業の実施</p> <p>授業評価アンケートの実施 学校関係者評価委員会の開催</p> <p>練習設備の整備進捗状況</p> <p>クラブ指導者の要員充足状況</p> <p>生徒の挨拶状況 生徒のマナー向上</p>	<p>り、「不審者侵入対応研修会」「体罰によらない教育と法実務に関する講演会」を学内で開催したりするなど、教員としての資質の向上を図った。</p> <p>【学内で実施する研修を増やすことで参加率を上げることも必要である。】</p> <p>② 各教員が自発的に授業見学をし、授業力向上に努めた。また、入試説明会の際などに保護者に授業を公開し、授業力の向上に役立てた。</p> <p>【各教員による指導力向上に向けた積極的な取組が多くみられた。新任教員に対しては研究授業を実施し、授業力の向上を図ることも必要である。】</p> <p>③ ④ 3月に中1～高2生を対象に実施した授業アンケート・自己評価アンケートについて、桐友会、同窓会、評議員から評価に関する意見をいただいた。</p> <p>【「学校関係者評価委員会」は、新型コロナウイルス感染防止のため開催を見送ったが、できる限り開催することが望ましい。】</p> <p>① クラブからの要望などに基づき練習場所の改修・整備を進めた。本館グラウンドについては桐友会の支援により人工芝の張替えを行い、自然素材のチップ使用により夏場でも快適な環境で練習できるようになった。生駒第8グラウンド(ラグビー部練習場)については照明増設に向け学園と検討を行っている。</p> <p>【生駒グラウンドの整備が進み出したことの意義は大きい。クラブの要望を聞きながら、速やかに整備を進めることが重要である。】</p> <p>② 将来の指導体制を見据え、クラブの意見を聞きながら若手指導者を採用した。本校卒業生のみならず、外部からも招聘をするなどして、クラブ強化に努めた。</p> <p>【クラブ指導者の後継者育成のために若手指導者の採用は不可欠であり、今後も長期的視点に立って採用していくことが重要である。】</p> <p>① 中学では当番を決め、朝の登校時に生徒が入口付近に立って挨拶をする取り組みを行った。また、ホームルームや集会においては、引き続きマナーの向上や挨拶の励行を呼び掛け、本校生徒に対する好意的な意見をいただいた場合は、集会などで生徒に伝えた。</p> <p>【生徒達による挨拶運動の取り組みはたいへん有意義であり、その効果も大き</p>
--	---	--	---

	<p>(6) 学校行事の実施時期、内容の検証をし、充実を図る。</p>	<p>② 外部講師を招いて実施しているSNSや薬物に関する講演を充実させる。</p> <p>③ 新入生オリエンテーションを実施し、校則の遵守を徹底するとともにマナーの向上や挨拶の励行を促す。 特にSNSについては、具体例を挙げながら注意を促す。</p> <p>① すべての学校行事について、実施時期・内容を検証し、充実を図る。</p> <p>② 学校行事は、情操教育を進め帰属意識を高めることにおいても非常に効果的である。新型コロナウイルス感染症の影響で実施が難しかった学校行事を令和4年度はできるだけ実施したい。</p>	<p>講演会の実施状況</p> <p>校則の遵守状況 生徒のマナー向上</p> <p>生徒の満足度向上</p> <p>学校行事の実施状況</p>	<p>い。引き続き教員からの声掛けも行いながら、挨拶の励行を進めていきたい。】</p> <p>② 今年度も外部講師を招いて、中1、高1対象にSNS等の危険性、薬物乱用防止に関する講演会をオンラインで行った。 【毎年新入生に対して講演会を実施することは不可欠であるが、フォロー研修の実施も検討する必要がある。】</p> <p>③ 1学期始業式当日に、新入生オリエンテーションをコースを分けて実施した。 【令和3年度は新型コロナの影響でオリエンテーションを実施できなかったが、令和4年度はコースごとに実施でき、校長・生徒指導部・教務部・学年より懲戒内規・教務内規について説明を行い、校則・マナーの遵守についても話げできた。】</p> <p>① 学校行事の実施時期、期間などについて教育効果を検証しながら検討を行い、令和5年度の研修では一部研修先の変更を行うこととした。 【今後もマンネリ化している行事がないかよく検証し、必要に応じて内容を変えていくことが重要である。】</p> <p>② 新型コロナの安全対策を行いながら春季学習合宿、夏期研修、校外学習を3年ぶりに実施した。音楽祭は実施できなかったが、他の行事は一部制約があったものの予定どおり実施できた。 【ほとんどの行事を予定どおり実施できたことは、学校生活を充実したものにす上で非常に意義が大きい。今後も安全に十分注意を払いながら、全行事を実施する方向で進めていく。】</p>
<p>2 大 阪 産 業 大 学 お よ び</p>	<p>(1) 大阪産業大学とのスポーツクラブの交流を図る。</p> <p>(2) 「特別推薦入試制度」を充実させ、大阪産業大学との進学に関わる連携を強化する。</p>	<p>(1) 大阪産業大学とスポーツクラブとの合同練習や施設の共同利用を通じて、情報交換・指導力の向上・技術力の向上を目指す。(現在バスケットボール部で交流を実施しているが、他のクラブにも広げていく)</p> <p>(2) 大学入試センターとの協議を重ね、両者間の「取り決め事項」を必要に応じて改定し、特別推薦入試制度」の充実を図り、進学者の確保に努める。</p>	<p>クラブ間の合同練習等の実施</p> <p>特別推薦入試制度による進学実績</p>	<p>(1) 男女バスケットボール部および男子サッカー部が、大阪産業大学のクラブとの間で練習見学、練習試合、情報交換などを行った。 【クラブ間の連携が強まりスポーツ推薦で大阪産業大学へ進学することも多く、大学のクラブ強化に貢献できている。一部のクラブに留まらず交流を拡げることが望まれる。】</p> <p>(2) 大学入試センターと連携を取りながら「特別推薦入試制度」の活用について検討を行い、進路指導を行った。 【Ⅲ類生が特別推薦入試制度により大阪</p>

<p>附属高校との連携</p>	<p>(3) 大阪産業大学の入学試験の検証に関わる。</p> <p>(4) 定期戦の実施も視野に入れ、附属高校とのスポーツクラブの交流を図る。</p>	<p>(3) 高大連携事業の一環として、大阪産業大学入試問題の解答・コメントを行う。方法については、より実効性のあるものにするべく大学入試センターと協議する。</p> <p>(4) 附属高校とスポーツクラブとの合同練習や施設の共同利用を通じて、情報交換・指導力の向上・技術力の向上を目指す。</p>	<p>入学試験の検証の実施</p> <p>クラブ間の合同練習等の実施</p>	<p>産業大学へ進学することが多く、今後もこの制度を活用して大学との連携を深めたい。】</p> <p>(3) 高大連携事業の一環として、大学の「公募推薦入試」「一般入試」において入試問題の解答作成を本校教員が行い、入試問題の点検に協力した。 【入試問題の点検に協力・貢献することができた。再点検のあり方は大学側と協議する必要がある。】</p> <p>(4) 附属高校との間で、バスケットボール部などクラブ交流の機会を持つことができた。 【一部のクラブではあるが練習試合も行うことができた。今後は定期戦の開催なども検討したい。】</p>
<p>3 地域との連携</p>	<p>(1) 地元(大東市・四条畷市)から応援される学校を目指し、地元地域のイベントへの生徒の積極的な参加を促す。</p> <p>(2) 組織のレベルで地元地域との連携を図り、地元地域からの積極的な教育支援を受けられることのできる開かれた学校を目指す。</p> <p>(3) 災害等の非常時に地域への支援・協力を実行できる体制を構築する。</p>	<p>(1) 生徒会・クラブを中心として、地元地域のイベントに積極的に参加し、つながりを強める。(文化部の各種イベントへの参加、生徒会による清掃活動、その他大東市役所や四条畷警察からの協力依頼案件など)</p> <p>(2) 大東市、四条畷警察署などとの連携を深め、地元自治体の活動・取り組みなどに協力する。</p> <p>(3) 災害時避難所に指定されていることを踏まえ、緊急時の受け入れ体制について、大東市と協議を行う。</p>	<p>地元地域のイベントへの参加</p> <p>協議実施の有無</p>	<p>(1) (2) 大東市民会館で行われた高校生英語弁論大会に7名の生徒が参加し、内4名が入賞した。 吹奏楽部が地元小中学校からの依頼により演奏会を行った。 大東市立総合文化センターとの連携事業として、理科学研究部、ロケット研究部、生物部が大阪産業大学環境理工学科と共同で「実験教室フェスタin大東」に参加した。 【新型コロナの影響があったが、多くのイベントに参加することができ、生徒にとっても貴重な経験を積むことができた。これからも地元からの要望には積極的に応えていくことが良好な関係を築いていきたい。】</p> <p>(3) 緊急時の受け入れ体制の検討はまだできておらず、今後の課題である。 【どのような場合に、どの程度の期間避難者を受け入れるのかなど、基本的なことから確認する必要がある。】</p>
<p>4 キャンパス整備</p>	<p>(1) 東館の撤退と本館集約に向けて「キャンパス整備計画」を策定する。</p> <p>(2) スポーツクラブの練習場を整備し、校外グラウンドを確保する。</p>	<p>(1) 本校では、本館と東館にキャンパスが分かれていることにより、様々な点で教育活動に支障をきたしている。将来的にはキャンパスを本館に集約したいと考えるため、「キャンパス整備計画」の策定を進める。</p> <p>(2) クラブの練習場を含めた施設・設備の改修・増設を進める。ラグビー部が使用している生駒第9グラウンドについては、法人の後押しにより整備が進んだため、これを機に更なる</p>	<p>整備計画の策定状況</p> <p>必要な改修工事の実施</p>	<p>(1) 隣接地および借地の購入を進めていくことができたため、将来のキャンパス整備を見据えて利用方法について検討を行った。 【学園全体の整備計画の中で検討しないといけないため、法人と検討を重ねながら整備を進めることが必要である。】</p> <p>(2) 桐友会の支援により古くなった本館グラウンドの人工芝張替え工事を行った。また、生駒第8グラウンド(ラグビー部練習場)照明設備増設に向けて検討を</p>

	<p>(3) 校内グラウンドの拡張、寮の新設について検討を進める。</p> <p>(4) 老朽化に伴う建物の傷みの点検と修繕を行う。</p> <p>(5) ICT 教育を進めるための環境を整備する。</p> <p>(6) 法人のサポートのもと、全教員への PC の貸与を検討する。</p> <p>(7) 電気機械・器具の最新化により、エコスクール化を進める。</p>	<p>整備を図る。野球部のグラウンドについては、改修の認可申請をする一方で、代替地を探すことも継続する。また、古くなったクラブバス・トラックを順次買い替える。</p> <p>(3) 隣接地の購入による校内グラウンドの拡張を検討する。また、寮の新設についても検討する。</p> <p>(4) 校舎の外壁・各教室に設置したプロジェクターなど、施設・設備の点検を実施し、優先順位を決めた上で修繕・改修を行う。</p> <p>(5) ICT 教育を進めるためにタブレットの追加購入を検討する。また、情報システム・ネットワークの見直しを行う。</p> <p>(6) 法人のサポートのもと情報管理体制を整えた上で、全教員への PC の貸与を検討する。(ペーパーレス化を進める)</p> <p>(7) 空調設備の入れ替え・照明器具の LED 化を進める。</p>	<p>グラウンド活用方法の検討実施</p> <p>修繕・改修工事の実施</p> <p>情報ネットワークの現状調査実施</p> <p>空調設備の更新 LED 化工事の実施</p>	<p>進めた。</p> <p>Ⅲ類クラブバスについては、硬式野球部のバスの買い替えを行った。</p> <p>【ようやくグラウンド整備に着手することができ、今後の計画を進めやすくなった。】</p> <p>(3) 本館グラウンドの隣接地を購入できたので、活用方法の検討を行った。</p> <p>【長期的視点に立って活用方法を検討する必要がある。】</p> <p>(4) 東館の全面的な外壁調査を行った。その結果に基づき令和 5 年度から補修工事を行う予定である。安全に電気を使用できるように本館のアクティブフィルター（高調波抑制装置）設置工事を行った。</p> <p>【予定どおり補修工事等ができた。今後も予算取りをし、計画的に修繕・改修を行う予定である。】</p> <p>(5) (6) 法人管理課とともに情報セキュリティの調査点検を行い、ネットワーク等のセキュリティ強化に向けて課題が整理できた。</p> <p>【課題が整理できたので、令和 5 年度は校内ネットワークの再構築およびサーバー機器等の交換を行う予定である。その後、全教員への PC 配備を行う予定である。】</p> <p>(7) 4年計画で進めていた本館空調設備の更新工事が完了した。照明器具の LED 化は2年前より優先順位をつけて進めているが、東館の工事が概ね終了した。</p> <p>【令和 5 年度は東館（普通教室以外）の空調更新工事、本館の LED 工事を進めていく予定である。全館 LED 化により光熱費の大幅な削減が期待できる。】</p>
5	<p>(1) 桐友会、桐友会 OB 会、同窓会の3つの外郭団体との連携を強める。また、学校が団体間の連携を強めるための役割を果たす。</p> <p>(2) 各会からの支援について、より有効なものにする。</p>	<p>(1) 各会の役員会や総会に教員が出席し、連携を強める。また、学校を仲立ちとして、桐友会、桐友会 OB 会、同窓会の横の連携を強める。</p> <p>(2) 各会の役員と連携し、教育活動への支援、教育環境の整備、クラブ活動への支援を依頼する。</p>	<p>役員会や総会への教職員の出席 役員との情報交換の実施</p> <p>支援の有効活用</p>	<p>(1) 桐友会、桐友会 OB 会、同窓会の3つの外郭団体との連携を強めるために、役員会や総会などに管理職が毎回出席し、情報共有・意見交換などを行った。</p> <p>【率直な意見交換ができ、本校の要望を事業に取り入れていただくことができた。】</p> <p>(2) 桐友会、同窓会、桐友会 OB 会と相談しながら、コロナ感染対策品、教育用機器備品、グラウンド整備費、スクールバス買い替え、クラブ全国大会出場に関わる支援などをいただいた。</p> <p>【学校予算ではすぐに対応できない事項について支援をいただき、学校運営が円</p>

<p>強化</p>	<p>(3)必要に応じて、各会の規約を見直す。</p> <p>(4)保護者とのコミュニケーションのツールとして、HPやミマモルメを活用する。</p>	<p>(3) 各会の役員とともに、規約を見直し、必要な箇所については改訂を行う。</p> <p>(4) HPやミマモルメによる情報発信を活用し、情報がリアルタイムで保護者に伝わるようにする。</p>	<p>規約の見直し検討</p> <p>情報発信状況</p>	<p>滑にできた。今後も保護者目線での支援をお願いしていきたい。】</p> <p>(3) 管理職が役員会に出席し、規約の見直しなどの検討を行った。 【学校の規程とのバランスを考慮しながら、慶弔に関する規約などの見直しを行うことができた。】</p> <p>(4) HR、ミマモルメによる情報発信のほか、Teamsを本格的に活用し、保護者との連絡ツールとして使った。 【欠席連絡やクラスの連絡などにTeamsを利用するようになり、円滑に連絡ができるようになった。さらに積極的に利用することにより、教員、保護者双方にとって利便性が高まると思われる。】</p>
<p>6 大阪桐蔭ブランド力の強化</p>	<p>(1)学則定員、募集定員について、常に見直しを図る。</p> <p>(2)より効果的な広報活動の方法を探る。</p> <p>(3)広報・渉外部の充実を図る。</p> <p>(4)Ⅰ類・Ⅱ類の進学実績(特に国公立難関大学・国公立医学系大学への合格)を向上させ、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、受験生へのアピールを強める。</p>	<p>(1) 教員数・教室の数を考慮しながら、学則定員(中学校600名 高等学校2160名)を見直すとともに募集人数を確保する。</p> <p>(2) 校内外での説明会の生徒募集への効果を検証し、形態や時期や回数を含め、効率的な実施を検討する。本校が利用しているあらゆるツール(Webサイト・HP・桐蔭レター・ミマモルメ)を通じて、広報活動を強める。特にWebサイトの活用を高め、情報発信力を強める。</p> <p>(3) 教員と事務員が分担している広報・渉外の仕事を整理し、広報・渉外活動を充実するため、組織・体制のあり方を検討する。</p> <p>(4) Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類それぞれの特長を明確にし、Ⅰ類・Ⅱ類は進学実績、Ⅲ類はスポーツ・芸術実績を向上させる。その実績は本校の大きなアピールポイントであり、受験生に強く訴える。</p>	<p>募集人数の見直しの実施</p> <p>説明会の実施および参加状況 ホームページの見直し実施</p> <p>広報体制の見直し実施</p> <p>難関大学の合格者数 各クラブの全国大会等への出場</p>	<p>(1) 中高の志願者動向、入学状況などを勘案し、令和5年度の募集人数の検討を行った。 【少子化により入試環境が年々厳しくなることが予想されるため、組織改編を含めた広報戦略の見直しが必要である。】</p> <p>(2) 学内での説明会、個別相談会、体験授業を、感染対策を行った上で予定どおり実施できた。学外の説明会にも積極的に参加し、いずれの説明会も昨年以上の参加者を集めることができ、本校の魅力をアピールすることができた。 【次年度の学校案内、ホームページのリニューアルに伴い、Webサイトからの情報発信力を強化することが課題である。】</p> <p>(3) 少子化を迎え広報・渉外活動の重要度が増してきているため、専属的に活動ができるような組織の在り方を検討し、組織改編を含め、入試広報の強化を進めている。 【入試広報に専念できるような組織改編が必要であり、早急に進める必要がある。】</p> <p>(4) Ⅰ・Ⅱ類においては高い目標を持たせて進路指導を行い、東大・京大・医学部など難関大学に多数の生徒が合格できた。Ⅲ類においては各クラブが甲子園大会、花園大会、ウィンターカップ、インターハイなどの全国大会に出場し、実績を残すことができた。 【入学者数の少ない学年であったが、生徒達の努力により、難関国立大学や医学医学科に多数の生徒が合格した。Ⅲ類各クラブも練習に励み、全国大会などにおい</p>

	<p>(5) 優秀な教員の確保に努める。</p> <p>(6) Ⅲ類クラブの全国レベルでの活躍をバックアップし、全国優勝を目指す。そのことで、在籍生徒・保護者の満足度を高めるとともに、知名度を高める。</p>	<p>(5) 教員募集の方法・時期を効果的なものにし、優秀な教員を確保する。</p> <p>(6) 法人や桐友会、桐友会 OB 会、同窓会の支援を得ながら、Ⅲ類クラブが活躍できるよう環境を整備し、その活躍によって本校の知名度を高めていく。</p>	<p>要員の充足状況</p> <p>支援の有効活用</p>	<p>て好成績を残すことができた。今後も高い目標を持たせ、モチベーションを引き出すことが重要である。】</p> <p>(5) 教員採用では本校のPR動画を作成し、春季および秋季募集を行って教員の確保に努めた。 【内定後の辞退もあるため、今後はそれを見込んだ上で、内定者数を決定することを検討する。】</p> <p>(6) 桐友会から各クラブに対して支援をいただき、クラブの活動費として使用した。また、高校野球の応援経費も支援いただいた。 【Ⅲ類の活動経費を部費だけで賄うのは難しいため、桐友会からの支援はたいへん有益である。次年度は全国大会出場時のクラブ支援についても検討いただくこととなった。】</p>
7 コ ン プ ラ イ ア ン ス へ の 取 り 組 み	<p>(1) 各種規定を整備・周知し、コンプライアンスの徹底を図る。</p> <p>(2) 「学校法人大阪産業大学情報管理基本規定」に基づき、法人のサポートのもと情報管理体制を構築する。</p> <p>(3) 人権教育、ハラスメント教育、体罰、いじめ等に関する研修を実施する。</p>	<p>(1) 教職員対象の規定の周知徹底を図る一方で、生徒対象の規定の整備にも取り組む。</p> <p>(2) 情報セキュリティの強化を図る。</p> <p>(3) 人権教育推進部、生徒指導部の主導で各種講演を実施し、安心安全な教育環境を整備する。</p>	<p>規程の整備・見直し</p> <p>情報管理の強化</p> <p>道徳教育や講演会の実施</p>	<p>(1) 学則、特別奨学生規程を改正し職員会議において要旨を説明し教職員へ周知した。 【規程等の周知は容易ではないため、今後も機会を見て規程・規則の説明することが重要である。】</p> <p>(2) 法人管理課のサポートのもとワーキンググループを立ち上げ、校内ネットワークおよび各種システムの現状調査を行って問題点の洗い出しを行った。 【情報システムの総点検を行ったことにより問題点が明確になった。今後も管理課と検討を進め、ネットワーク再構築など、優先順位をつけて問題点の改善に取り組む。また物理的な面のみならず、システムエンジニアの常駐を含め、安全管理を徹底できる体制を作ることが重要である。】</p> <p>(3) 生徒指導部主導により、今年度も中1、高1対象にSNS等の危険性に関する講演会をオンラインで行った。また、教職員対象に7月に「不審者侵入対応研修会」を、8月に講演会「体罰によらない教育と法実務」を実施し、教職員の資質向上を図った。 【研修は継続的に実施することにより効果が高まるので、同じテーマであっても視点を変えて研修を行うことも必要である。】</p>